

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクト2 (Project 2)		授業コード	L120201
担当教員名	近藤 正一、菅 雅幸、濱永 康仁		科目ナンバリングコード	L21202
配当学年	2	開講期	通年	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	ものづくりによる地域貢献に積極的に参画できることが履修条件です。			
受講心得	この分野では、制作や作品の設営など、あらゆる作業段階において、チームワークが要求されます。仲間とともに困難を乗り越え喜びを分かち合う体験を通してものづくりの喜びを学び取ってください。			
教科書	教科書の指定なし			
参考文献及び指定図書	必要に応じて、優良図書を紹介します。			
関連科目	プロジェクト1、プロジェクト実習、スペースデザイン			

授業の目的	前期は、地域に役立つものづくりという視点で問題意識をもち建築によって解決する能力を育成します。後期は、制作した作品の設営・発表を通してものづくりによる地域貢献の技術と豊かな感性を身につけることを目的とします。
授業の概要	複数の地方公共団体に協力をいただき、災害時に役立つ家具、祭りなどに貢献できる展示物などをチームワークにより制作し、実際に市民に対し展示し発表します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション</b> ①授業の目的、②授業の概要、③ものづくりによる地域貢献の基礎知識と意義について解説し、質疑応答や準備のためのワークショップを実施します。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第2週：設計案の作成</b> チームごとに、災害時に役立つ家具、祭りなどに貢献できる展示物などのテーマを決定し、具体的な設計案をまとめ上げます。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第3週：アイデアの共有化</b> 各チームからの提案をプレゼンテーションします。意見交換を行い、ものづくりのアイデアを共有化します。制作のために必要となる材料を準備します。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第4週：構造のスタディ</b> 必要に応じて図面を整え、スタディ模型を制作します。架構のための基本的な部材を制作し、強度や加工性について検討します。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第5週：基本部材の構築</b> 試行を繰り返し、大まかな枠組みや構造体などスケルトンを完成させます。工房で作業する場合は、安全への配慮も必要であり事前に作業計画を作成して提出してもらいます。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第6週：インフィルの検討</b> 実際の使用状況を想定し、適切な使い勝手や空間の構成、美観、耐久性、仕上げなどについて、検討します。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第7週：中間チェック</b> チームごとに作品の中間チェックを受けます。指摘を受けた部分についてフィードバックし、修正を加えます。	配付資料・適宜演習課題等
<b>第8週：作品の完成</b>	

前期の集大成として、チームごとに作品を完成させ、出来上がった作品について、プレゼンテーションを実施します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第9週：展示企画</b> 地域でのまちづくりに役立つ作品であることを市民にアピールするための展示企画を地域の方々とともに検討するワークショップを実施します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第10週：展示準備</b> 具体的に展示を実施するために必要となる様々な資材や段取り、手配などを実施し、展示の準備を実施します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第11週：展示設営</b> 現地で展示の設営を行います。複数の市町村において実施する予定であり、各地に合った方法によりチームに分かれて実施します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第12週：展示運営</b> 地域からのニーズに応じてイベントの運営に協力するかたちで、展示物を円滑に観覧できるよう、役割を分担し実施します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第13週：展示片付け</b> どんなに素晴らしい展示であっても、片付けが不十分では地域の方々に喜んでいただけません。展示する前よりも、もっときれいになるよう清掃します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第14週：地域での発表</b> 地域で報告会を実施します。これまでの取り組みを第三者が初めて見ても分かるようなかたちにまとめ、発表します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>第15週：ふりかえりと分かち合い</b> 授業のまとめと「課題レポート」を提出し、解説することにより、演習の成果を共有するとともに各自の教養として深く身につけるため、ふりかえりと分かち合いを実施します。	配付資料・ 適宜演習課題等	
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<b>地域志向科目</b>	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
<b>備考</b>		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

<b>【関心・意欲・態度】</b>	①地域に役立つものづくりに対する問題意識がある。
<b>【知識・理解】</b>	②地域における諸問題を建築によって解決するための知識を身につけている。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③ものづくりによる地域貢献の技術とそれをチームワークで実現させる豊かな感性が身についている。
<b>【思考・判断・創造】</b>	④地域における諸問題を建築によって解決するための思考・判断・創造ができる。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	<b>期末試験・中間確認等(テスト)</b>	<b>レポート・作品等(提出物)</b>	<b>発表・その他(無形成果)</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			<b>20点</b>	

<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		<b>20点</b>	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			<b>20点</b>
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		<b>40点</b>	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
<b>レポート・作品等 (提出物)</b>	達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
<b>発表・その他 (無形成果)</b>	達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。